

先日、初期研修の一環といたしまして、診療所での研修をさせて頂く機会を得ました。お世話になりました皆様方への感謝の気持ちを含めましてご報告申し上げます。

今回、私は古林内科、大原クリニック、辻クリニック、石井クリニックという4つの施設にお世話になり、そこで主に外来／往診の研修や見学を経験させて頂きました。

その中で最も印象に残りましたのは、先生方と患者さんとの関わりについてです。先生方は日常の外来診療のなか、患者さんの病気や症状についてのみならず、その社会的バックグラウンドなどについても詳細に把握されておられました。それを踏まえて、治療に際してもただ単に薬剤を処方するといっただけではなくその人に合わせて、例えばどのようにすれば内服忘れがなくなるかといった点などにも言及しておられました。まさに疾患としてではなく、その疾患を持った人間として患者さんに接しアセスメントされておられるのを見て、見習わせていただかなければならぬと存じました。

また、そのアセスメントに関しても各診療所の先生方は、丁寧かつ簡潔な問診及びレントゲンなどの限られた画像手段だけで正確に診断し治療方針を決定されていました。それは大変勉強にな

りましたと同時に、すぐに精密検査に走る傾向にある自分自身を猛省する機会にもなりました。

更には大阪市の医師会の会議にも同行させて頂く機会をも頂きました。病院経営などの医療の社会的な側面に関しても学ぶ機会を得ることができました。教科書などでは絶対に学べない部分であり、その機会を得られたことを大変幸運に思います。

最後になりましたが、お忙しい業務の中、親切にご指導下さいました先生方、サポートくださった看護師をはじめコメディカルの方々、ならびにこの研修をコーディネートして下さいました皆様に心より御礼申し上げます。総合病院勤務ということは地域の先生方の多くのご尽力があつてこそ初めて成り立つものである、ということ常々心に刻みつつ、今回の研修で得たことを今後の診療に生かして行きたいと存じます。今後共ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。